

ぷかぽど

JA全農えひめ情報

■特集

ひめライス50周年！(株)ひめライスの取り組み

■JA直売所めぐり

JAグリーンえひめ ～JA全農えひめ～

10

2013・October





親子で 地産地消体験

(松山市)



えひめ愛フード推進機構とJA全農えひめ、JA愛媛野菜生産者組織協議会は、8月30日、「夏休み親子で学ぼう！地産地消体験ツアー」〜松山市近郊コースを実施しました。このツアーは、愛媛産農産物を親子で見ても、触れて、食べる体験を通し、地産地消の意義を学んでもらおうという企画で、松山市近郊の小学生親子など8組・18人が参加。松山市恵原町では、伊予ナス生産者の林志朗さんらから収穫方法や栽培の苦労について説明を受けた後、一斉に畑に入り伊予ナスを収穫。袋に詰め込んだナスを手に、「暑い中で収穫している生産者の苦労を感じながら感謝して食べたい」「ナスカレーを食べたい」「今日の夜はマーボーナスにしよう」などと笑顔を見せていました。

また、JA愛媛厚生連健診センターでは、講師の中村和憲さん（料理研究家）の指導で、収穫したナスとえひめ野菜をたっぷり使って「夏野菜のフレッシュマリネ」などの料理づくりに挑戦。悪戦苦闘しながらも、楽しそうに野菜を調理し、試食では「おいしい」を連発。中村さんの食育教室も好評で、参加者は野菜づくりのツアーを満喫していました。

めぐり〜ど

October 2013

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支え、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



稲刈りも無事に終わり、豊年満作に感謝している頃。遠くから祭囃子の音が聞こえ、朝からウキウキ、心もはずむお祭りです。都会へ出かけた若者たちも心をひとつに神輿を担げば、地元を離れた年月も距離感も一気に縮まるふるさと祭り。スズメもトンボも祭りを見物、キンモクセイは芳香を放ち、空は秋晴れ。

あっぱれ！ 祭り日和です。

- 表紙：秋祭り
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.154

親子で地産地消体験 (松山市)

2

〈特集〉

ひめライス50周年！(株)ひめライスの取り組み
「ひめライス」のブランド力を発揮し
愛媛のお米の販売拡大・強化めざす！

6

THE・ねっとわーく

7

統計BOX

8

ふるさと ESSAY VOL.222

ワクワクドキドキ第二の人生Ⅱ
河上 たずみさん

10

TOPIC NEWS

14

JAふるさと自慢Vol.154「直売所めぐり」

JAグリーンえひめ

～JA全農えひめ～

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉生椎茸

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

- JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

- ◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>
- ◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>
- ◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>
- ◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>
- ◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>
- ◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

「ひめライス」のブランド力を発揮し 愛媛のお米の販売拡大・強化めざす！

ひめライスブランドは、生産者と消費者を結ぶ信頼のブランドとして誕生し、今年で50周年を迎えました。株ひめライスは、JAグループの一員として、県内産の米を有利販売し米の生産基盤を守り続けるという使命のもと、消費者に満足いただける安心・安全・高品質なお米を届けるため、「ひめライス」ブランドを核に、50周年を節目にさらに販売拡大と事業競争力の強化に取り組んでいます。今回は、(株)ひめライスの取り組みを紹介します。

ブランド誕生50周年！

(株)ひめライスは、平成15年に組織・事業改革の一環としてJA全農えひめ（当時は県農えひめ）の食糧販売事業を分社化して発足。JA全農えひめの100%出資会社として、「ひめライス」ブランドを核にした生産販売一貫体制で、県内産米の販売拡大と競争力強化に取り組んでいます。

ひめライスブランドは、昭和38年1月に誕生（商標決定）しました。

それまでは、農協単位で組合員農家の共同事業利用として農協精米事業が行われていましたが、米を取り巻く情勢が変化する中で、農協単位での米の小売販売事業は小規模で効率も悪くシェアも年々低下し、品質面でも課題がありました。そこで、当時の愛媛経済連が、農協精米所の事業共同・協業化の方針に基づき、今治地区を皮切りに県内4地区に集中精米工場を建設。集約することで、搗精（加工）コストの削減と事業体制の確立を進めるとともに、「ひめライス」のブランド名で販売を開始

し、お米の消費拡大に取り組んだことに始まります。

昭和48年にはテレビCMを開始し、昭和54年には県内の米卸会社の中で取り扱いシェアがトップとなりました。以降は、「愛媛のお米」ひめライス」として県内トップブランドの地位を確立し、現在も県内で米卸会社を通じて販売される精米の中で約50%のシェアを占めています。販売の多様化、小売り量販店の低価格指向、県外からディスカウントストアやドラッグ系・DIY系などの相次ぐ進出などで販売競争が激化



▲安心と信頼のブランドマーク



する中、(株)ひめライスは、主食であるお米の製造・販売を通して、「安心・安全・美味」なお米を地元の消費者にお届けし、生産者と消費者を信頼で結ぶ懸け橋になることを使命に事業に取り組んでいます。



**ブランド維持に向けて
様々な取り組みを展開中**

(株)ひめライスは、ブランド力を活かし、愛媛米の有利販売と販売拡大、

競争力強化を図るため、効果的な広告宣伝活動、販売拡大対策、安全・安心対策に継続して取り組んでいます。

ブランドイメージ向上と販売拡大対策では、キャンペーンやテレビCM放映・番組提供を通じた消費宣伝活動、ママさんバレーボール大会やレディース卓球大会への協賛、愛媛FC応援米の販売など地域のスポーツ支援活動等を継続実施し、ブランドPRと消費拡大に取り組んでいます。

キャンペーン展開は、例年、新米キャンペーンと冬場の無洗米キャンペーンの年2回実施していますが、今年度はブランド誕生50周年記念として、感謝の気持ちを込めて、年3回実施する計画です。4月中旬～6月末まで、第1弾として「50周年ありがとう」キャンペーンを展開し、販売拡大と小売店の販売促進支援に取り組ましました。

キャンペーンは、購入者を対象としたクローズド方式ですが、毎回2万枚以上の応募を集めて好評です。

顧客満足度の向上に向けて、キャンペーンを通じて寄せられたアンケートの声やホームページ等を活用し、商品品質の向上と情報収集・発

信強化を進めています。ホームページは、ブランド誕生50周年に合わせリニューアルし、炊き方や保存方法、無洗米のメリット、料理メニュー提案など商品知識を発信することで、消費拡大とファン拡大に努めています。

万全の安全安心対策と製造コスト引下げを追求

安全・安心対策では、ISO9001と品質検査室を活用し、徹底した品質管理と品質向上、品質



▲品質管理も万全!

改善に取り組むとともに、四国一の精米処理能力を誇る精米工場では、計画的に施設の充実を進めています。

原料となる玄米は、農産物検査を受検したもののみを使用。工場内トレーサビリティシステムを導入し、精米袋のロット番号による履歴管理、残粒除去装置の導入、本機および無洗米ラインは色彩選別機で2回選別など品質管理には万全を期しています。

平成24年3月には、品質管理の向上をめざして、無洗米加工ラインの整備とともに、印字検査装置付きの包装計量機の導入やロボットパレターザー(積付け設備)を増設し、自動倉庫への搬入、製品出荷の合理化に取り組ましました。

また、生産者からの買い取り価格への貢献、つまり高く仕入れて消費者に適正価格で販売するため、製造・加工面では、ローコストオペレーション⇨製造コストの引き下げを追求しています。

作業の標準化による労働生産性向上に取り組むとともに、全農グループブロック別連絡協議会を通じ、さらなるステップアップに向けて取り組んでいます。

無洗米の販売拡大に向けメリットをPR!

商品の充実強化に向けては、量販店等のPB(プライベートブランド)商品、産地指定の「こだわり特裁米」など差別化商品の投入、消費の小袋化が進む中で1kg・2kg袋の充実など利便性重視の包装形態の採用など、商品の充実・強化を進めています。

戦略商品と位置づける無洗米「あらうまい!」は、ひめライスの精米販売全体に占める販売シェアが年々拡大し24年度で約26%となっており、将来的には30%をめざし取り組み中です。キャンペーンを通じたPRを継続実施してきたことで、応募者からは『製造方法やメリットの内容がわかりよかった』などの声も多く寄せられています。今後も、50周年記念のキャンペーン等と連動して、消費者に安心・安全・エコな無洗米の利便性やメリットのPRのほか、新規顧客獲得と切り替え推進を進めていきます。

情報発信と企画販売強化を進めています。

営業面では、定番商品・無洗米・こだわり商品と量販店へのPB商品対応、業務用販売の拡大をポイントに、消費者・バイヤーへの商品等の情報提供・発信と企画提案、キャンペーンと連動した企画販売強化や売り場づくり提案などを通じて、戦略的な販売を進めています。

事業を取り巻く環境は、生産者直売・JA直売やネット販売も増えており、流通の多様化で厳しさを増しています。(株)ひめライスでは、今後は、全国展開している飲



株式会社ひめライス
代表取締役社長
山本 健吾

食店等の業務用需要の窓口となつている全農グループ卸などとの連携を強化するとともに、四国一の精米処理能力を活かし、広域量販店を通じた販売エリアの拡大も視野に検討も進める計画です。

消費者の信頼を裏切らない価格と品質を追求！

(株)ひめライスの山本健吾代表取締役社長は、「当社は、米の生産販売一貫体制の一翼を担っています。愛媛米のレベルアップと生産基盤を守り続けるため、JAグループと連携して生産者の手取り向上につなげることが最大の使命です。」

キャンペーン等で寄せられる消費者の皆様の声を拝見すると、長年培ってきたブランド力の大きさ・重みを感じており、この知名度・信頼を販売強化につなげたいと考えています。と同時に、県内卸のプライスリーダーとして、品質に見合った、消費者に認められる価格を追求する責任の大きさも感じています。今後、消費者を裏切らない価格と品質を追求していきます。

製造コストダウンと流通コストの引き下げ、品質の安定化・向上、製

造力・営業力のレベルアップなど様々なブランド強化策を図って期待に込めていきたい」と力強く話しています。

県内JAの米の集荷は、24年産は前年を上回ったものの、JAグループの集荷率向上が大きな課題です。

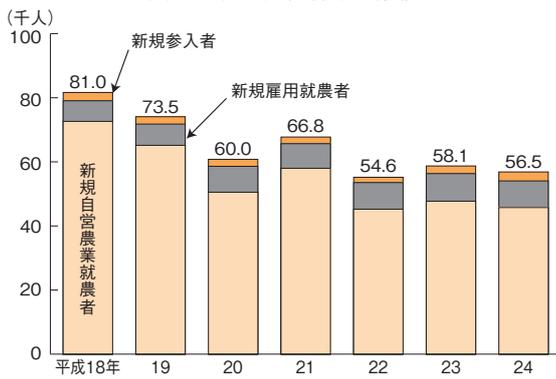
震災以降、米の需給が逼迫する中で2年続けて米価格は高値で推移しました。24年産も当初は高値で推移していたものの、精米価格高騰による消費の減少、特に外食等では原価を維持するために米の使用量を減らすなど業務用需要の減退が進み、供給過剰見通しの中で、年明け以降、特に今年度に入り市場価格は落ち込みました。25年から26年の需給見通しでも、過剰在庫が見込まれる中で、25年産価格は大幅に低下しています。

こうした中、「ひめライス」のブランド力・販売力が、今後のJAグループの買い取り価格の設定にも大きく影響します。県内産の米をできるだけJAグループに集荷すること、農家の皆さんの想いが詰まったお米を「ひめライス」ブランドで有利販売し愛媛米の評価を向上させていくことが重要です。生産者の皆様のご協力をお願いします。

統計BOX

新規就農者は全国で5万6,480人 —平成24年新規就農者調査結果の概要から—

図1 新規就農者数の推移



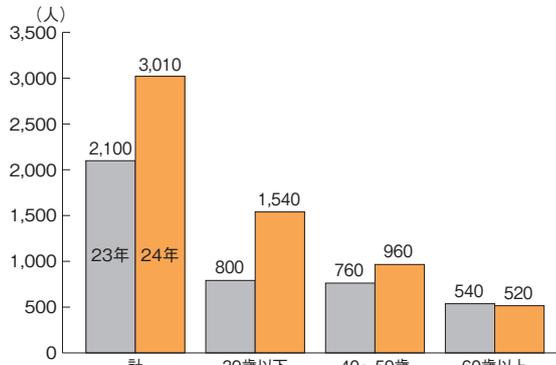
資料：農林水産省「平成24年新規就農者調査結果の概要」
(平成25年7月26日公表)

平成24年の新規就農者は5万6,480人で、前年に比べ1,640人(2.8%)減少しました。就農形態別にみると、新規自営農業就農者は4万4,980人で、2,120人(4.5%)、農業法人等新たに雇用された新規雇用就農者は8,490人で、4,300人(4.8%)

新規就農者は前年より減少

我が国の人口は減少局面に入り、農業就業人口の減少と高齢化が進む中、食料の安定供給を確保し、農業の持続的な発展を図っていくためには、新規就農者を確保し、その育成を図ることが重要です。そこで、今月は将来の日本の農業を担う新規就農者について見ていきます。

図2 年齢別新規参入者数の比較



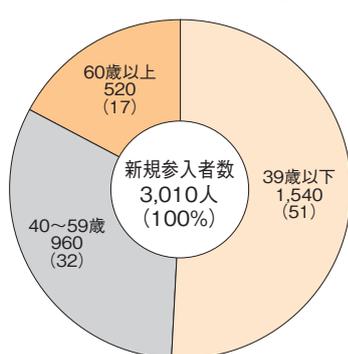
資料：農林水産省「平成24年新規就農者調査結果の概要」
(平成25年7月26日公表)

新たに農業経営を開始した新規参入者を年齢別にみると、39歳以下は1,540人で74.0人(92.5%)、40～59歳は960人で2,000人(26.3%)それぞれ増加し、60歳以上は520人で20人(3.7%)減少しました。一方、土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した新規参入者は3,010人で、910人(43.3%)増加しました(図1)。また、年齢別に見ると、39歳以下は1万5,030人で81.0人(5.7%)増加したものの、40～59歳は1万2,090人で520人(4.1%)、60歳以上は2万9,380人で1,910人(6.1%)それぞれ減少しました。

新規参入者は43%増加

それぞれ減少しました。一方、土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した新規参入者は3,010人で、910人(43.3%)増加しました(図1)。また、年齢別に見ると、39歳以下は1万5,030人で81.0人(5.7%)増加したものの、40～59歳は1万2,090人で520人(4.1%)、60歳以上は2万9,380人で1,910人(6.1%)それぞれ減少しました。

図3 年齢別新規参入者数



資料：農林水産省「平成24年新規就農者調査結果の概要」
(平成25年7月26日公表)

この事業についての問い合わせは、中国四国農政局経営・事業支援部経営支援課(電話：086122414511(代表))へお願いします。
中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ

上は520人で20人(3.7%)減少しました(図2)。また、年齢別の割合は、39歳以下が新規参入者全体の5割以上を占めています(図3)。農業を始めたと考えながらも、「所得の確保」「技術の習得」等農業特有の悩みや不安を抱えている方が多いのではないだろうか。農林水産省では、そうした就農時の悩み・不安を解消し、安心して農業を始めたいだけという、平成24年度から「新規就農・経営継承総合支援事業」で、就農の準備段階から経営を開始した後の就農初期段階まで、農業を始める方々を総合的にサポートしています。



ワクワクドキドキ 第二の人生Ⅱ

2年目の農作業がスタートして間もない頃、私の農園のすぐ近くに、民間の産業廃棄物最終処分場が造られるという話が突然町に広がりました。久万

高原町の自然と環境に魅せられてこの地で農業を始めた私にとって、まさに青天の霹靂（へきれき）とも言える出来事です。清流仁淀川の源流でもある川の隣接地で、処分の仕様が無い大量のゴミが埋められるという話に不安をいただきました。と言うのも、造られる時点では大丈夫だと言われてきたゴミ最終処分場から汚水が漏れ出し対処に苦慮しているという話を何度も耳にしているからです。長い時間をかけ受け継がれてきた自然と環境を損なうことの無いよう、慎重な調査と計画をもって、誠実に地域住民との話し合いを持ってもらいたいと思います。

この気がかりな状況の中でも去年と同じような農園での時間が過ぎていきました。1年目は様子がわからず結果

的に無理をしてみましたでしたが、2年目ということでまだまだ先輩方には及びませんが、要領も段取りも少しずつ良くなってきたように思います。

私が小さかった頃、母の手伝いをしていた、母に「段取りが良いのは頭が良いってことよ」と言われ、ふてくされて見せたことを思い出しますが、農業を始めたことで頭脳もさることながら経験も大事なことだと感じました。近年、子供たちの生活においてもいろいろな経験をする機会が少なくなっている、積極的に自分で考え行動することや、限度をわきまえ「良い加減」に他人と付き合うことを苦手とする傾向にあるようです。多くの体験で得られる心や体の成長は、ゲームでは育むことのできないところかもしれません。

5月の2度目の田植えから2ヶ月近く過ぎた7月の曇り空の下、次々と生えてくる田の雑草に悪戦苦闘していると、とうとう雨が降ってきました。ビ

河上 たずみ

TAZUMI KAWAKAMI

昭和24年7月8日、上浮穴郡小田町（現喜多郡内子町）生まれ。若い頃から農業に惹かれ、農家に嫁ぎたいとの思いはあったが、岡山の音楽大学を卒業から1年、教師をしていた夫と結婚。夫の定年までの35年間、音楽教室や個人レッスンでピアノ教師を続ける。3人の子どもに恵まれ子育てを楽しむ一方、25年間ソフトバレーボールで汗を流す。興味のあることをいろいろと体験したが、農業をあきらめきれず、15年ほど前にコミュニティ農園で農業デビューを果たす。本格的に農業をしたいという夢がさらに膨らみ、久万高原町役場を訪ねて何度も農地を紹介してもらおうが希望通りとはいかず、半ばあきらめかけていた頃に希望に見合う農地が見つかり、還暦を過ぎてついに農業の夢を実現する。現在は伊予郡松前町に在住し、車で約40分の上浮穴郡久万高原町の4反7畝の農地へ通い、松前町の農地1反も含め、農業を満喫中。2012年に農業1年目の体験記「女61歳初めての農業」（東京図書出版発行）を出版。書籍ご希望の方はTEL090-5912-2731（河上）まで。



▲久万高原町の園地集落の農業用水路の掃除風景。河上さん（手前）は地域の一員だ

ニールハウスへ飛び込み、中で作業をすることにしました。ここではトマトやスイカ、メロンを育てています。パラパラと屋根を打つ雨音を聞きながらトマトの花の甘い香りに包まれ、何かとお世話になっているピーマン部の支部長さんからもらったトマトの苗木の脇芽を取り、挿し木をして増やした60本の苗を見て回りました。茎に紐をつけ吊り下げたり、雑草を抜いたり1人だけのゆったりとした至福の時間が過

ぎていきます。これまで、虫にかじられし脇芽を挿すという作業を何回も繰り返してきました。その後やっと大きくなった株に小さなトマトの実が付いているのを見つけた時には、自分の子供の成長を見るようにいとおしさに思わず顔がほころびました。この後夏に向かつて次第にハウスの中は高温になっていき、目に入る汗に泣かされながらの過酷な作業へと変わっていきま



▲稲刈り。今年は稲が雨風で倒れ心配していたが、豊作となり、ひと安心

す。このような過程を経ながら育ててきた野菜は、私にとって愛着のある特別な物に出来上がっていきます。

メインになっているピーマン栽培は、収穫が追いつかなくなり娘達に迷惑をかけた1年目を教訓に本数を減らすことにしました。しかし、出荷の最盛期には相変わらず朝早くから夕暮れまで作業は続きました。1日掛かりで収穫したピーマンを、暗くなりひと気の無くなった出荷場へ運び、心地よい疲れと達成感を感じながら1人帰路に就く毎日です。

農業を始めるまでこのように集中して仕事をした経験が無かったので、その疲れの心地よさが、長く続いていたスポーツの後の爽快感と相通ずるものだということを初めて知りました。農業をする上で避けては通れない力仕事や忙しさも、スポーツだと思いと苦にならないのは不思議なことです。知人の多くはとんでもないことを始めたものだと思っているようですが、長年の夢が叶って始めたことなので、それほどでもないことだという実感は持っています。むしろ、「皆さんもいかがですか」と勧めたいところです。

●夏野菜を食べよう！ in エミフルMASAKI

8月31日＝野菜の日。野菜アイス&焼きそばでPR！

8月31日は語呂合わせで「野菜の日」。JA愛媛野菜生産者組織協議会とJA全農えひめ野菜花卉課は、松前町のエミフルMASAKIでえひめ野菜消費宣伝イベントを実施し、愛媛産の野菜を使ったアイスと焼きそばを無料配布し野菜の消費拡大を呼びかけました。

このイベントは、野菜の記念日にあわせて、えひめ野菜をPRしようと毎年開いています。今回は「夏野菜を食べよう！ in エミフルMASAKI」と題して、焼きそば先着300人、野菜アイス先着600人に配布するコーナーを設置。午前11時の開始前から長い列ができ、昼過ぎに終了するなど大盛況でした。

焼きそばは、ナス・ピーマン・タマネギ・キャベツ・生シイタケ・ミニトマトと愛媛県産豚肉『ふれ愛・媛ポーク』を使用。子どもたちは野菜たっぷりの焼きそばを美味しく頬ばっていました。

愛媛の主要夏野菜であるキュウリ・トマト・ナス・ピーマンを使った4種類のアイスは、今回のイベント向けにそれぞれの素材の味をストレートに出した特注品。アイスでは珍しいキュウリとピーマンは興味津々で受け取る人…。「口に近づけただけでピーマンの香りがした！甘くておいしかった。こんな食べ方もあるんだ」と、事務局の予想を超える高評価で、用意した各150個のアイスはあっという間になくなりました。



会場では、えひめ野菜のキャラクター「落第忍者乱太郎」のうちわや料理レシピの配布、和太鼓集団「鼓太朗」による和太鼓演奏でイベントを盛り上げました。

●エコえひめ農産物市場

「エコえひめ」農産物をPR！

JA愛媛野菜生産者組織協議会とJA全農えひめは、9月7日と8日の2日間、松山市のフジグラン松山で開催された「エコえひめ農産物市場」に出展し、エコえひめに認定されているトマト・タマネギをPRしました。

このイベントは、愛媛県が減農薬・減化学肥料で栽培・認証した「エコえひめ農産物」を広く県内消費者にPRし、消費拡大を図ろうと企画したもの。JA愛媛野菜生産者組織協議会のブースでは、簡単レシピの試食や乱太郎グッズを配布しました。



●平成25年度産里芋・山の芋出荷協議会

25年度産里芋は面積増により2,356 tの出荷を見込む

JA愛媛野菜生産者組織協議会とJA全農えひめ野菜花卉課は、9月3日、JAうま総合経済センターで、平成25年度産里芋・山の芋出荷協議会を開きました。

里芋は、「伊予美人」としての出荷が今年で8年目を迎え、ブランドイメージも徐々に定着しており、25年度は東予地区を中心に新規作付け拡大が進んだことで、面積は前年比108%の101.9ha、出荷量は前年比104%の2,356 tと大幅な増加を見込んでいます。

販売基本方針では、①生産出荷計画に基づく安定供給、②企画販売の取り組みの拡充、③「伊予美人」ブランドの消費宣伝活動の強化に取り組むことを確認しました。



●愛媛県民間流通地方連絡協議会

実需者ニーズに対応し、作付拡大と高品質安定生産を！

J A全農えひめ食糧生産課は、8月30日松山市のJ A愛媛で愛媛県産麦の円滑な流通をめざし、愛媛県民間流通地方連絡協議会を開きました。会議には、16の精麦や製粉、醤油・味噌関連の実需者と生産者・J A・県関係者ら50人が出席。25年産の販売見込数量や26年産の販売予定数量を確認するとともに、愛媛県産麦に対する意見交換を行いました。

26年連続生産量日本一（24年産実績）の愛媛県産はだか麦は、17年以降、購入希望数量が販売予定数量を上回る状況が続きましたが、作付面積の伸び悩みと天候不順等により需要に応じた数量を供給ができなかったことなどから実需者の代替品目への転換等が進んだため、26年産は販売予定数量5,292 tに対し、購入希望数量は5,068 tとなっています。

実需者からは、「はだか麦は味噌を中心に根強い需要がある」として、安定した品質と数量確保の要望が相次ぎました。J A全農えひめでは、「販売予定数量の確実な確保と安定供給に向けて、引き続き作付拡大と高品質安定多収生産に取り組もう」と呼びかけています。

また、実需者からは有望品種「ハルヒメボシ」への期待の声が出されました。J A全農えひめ



は、地域適性を見ながら導入を進めることにしており、今後、品種適性の把握や地域適応性などの検証、実需者の評価を得るため加工適性等の実証に取り組めます。

なお、25年産は収穫時期が好天に恵まれ、1等比率は88%（前年89%）と品質は良好でした。集荷数量は4,303 t（前年比115%）。11月中旬以降に播種した圃場で播種後の雨で出芽不良や出芽遅れ、出芽後の低温で分けつ不良により茎数が確保できなかったため、当初見込みの5,000 tを下回りました。

小麦も同様に順調な収穫となり、品質は前年に比べ良好で1等比率が75%（前年53%）だったものの、集荷数量は451 t（前年比87%）でした。

●J A愛媛野菜生産者組織協議会

親子料理教室を開催し、えひめ野菜をアピール！

J A愛媛野菜生産者組織協議会とJ A全農えひめは、京阪神地区でえひめ野菜のPRと消費拡大を図ろうと、販促フェアと連動した親子料理教室を実施しました。

8月19日には神戸市中央卸売市場内のマーケットピア神戸で、量販店の販促時や神戸市ホームページで応募のあった24組50人の親子を招きました。参加者は、野菜をふんだんに使ったカレーを調理したほか、J A全農えひめ大阪事業所職員によるえひめ野菜の紹介、愛媛でとれる伊予なす・松山長なす・絹かわなすの食べ比べを行いました。参加者からは、「これからいろいろな野菜を入れてカレーを楽しみたい」という声が出されました。

9月14日には大阪市内で、トマト主産地のJ A全農おかやまとJ A全農ぎふとの連携販促の



一環で料理教室を開催しました。京阪百貨店守口店で応募のあった10組20人が参加。オタフクソース(株)とタキイ種苗(株)と連携し、トマトお好み焼き・焼きそばの調理、トマト講座を通じてトマトの活用法や魅力を発信しました。

●平成25年産栗出荷会議 市場出荷459 tの販売方針を決定

J A全農えひめ果実課は、8月23日、松山市のJ A愛媛で平成25年産栗出荷会議を開催し、販売方針と消費宣伝計画を決めました。

25年産の栗は、年明け以降気温が平年を下回りましたが、2月以降気温が上昇したことにより、発芽は平年より10日早い3月19日でした。4月に入り気温が低く推移したため生育はやや緩慢でしたが、5月中旬から温暖となったため、平年より3日程度早い開花となりました。着穂数は、品種や園地のバラツキはあるものの平年並～やや多め、肥大は猛暑・干ばつの影響で小玉傾向となっています。

県内主産地4 J A（J A愛媛たいき、J Aえひめ中央、J Aひがしうわ、J Aえひめ南）の栽培面積は2,063ha（前年比99%）、生産量は1,030 t（同99%）、出荷量999 t（同99%）のうち市場出荷は459 t（同97%）を計画しています。

販売方針では、重点市場への計画的安定出荷、選果・選別の徹底と品質向上、産地・消費地情報の的確な把握と情報の交換等に取り組みます。消費宣伝活動では、パンフレットや短冊を活用し季節感を前面に打ち出した店頭試食宣伝により、「愛媛の栗」の知名度アップと需要拡大を図ります。

●第38回愛媛県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト 最優秀賞に中岡さん・坂本さん

「第38回愛媛県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト」が、9月1日J A愛媛たいき大瀬SSで開かれ、最優秀賞には、フルSSの部で中岡翔斗さん（J A愛媛たいきオズメッセセルフSS）、セルフSSの部で坂本和俊さん（J Aえひめ南JASS-PORT津島）が選ばれました。

コンテストは、愛媛県JA-SSチェーン本部が、利用者に愛され信頼されるJA-SSづくりに向けて、接客・点検技術の向上、優秀事例の共有化によるSS店舗の活性化をめざし毎年開いています。今回は5 J AからフルSSの部に8選手、セルフSSの部に4選手が出場。模擬客を相手に設定された課題への対応、接客サービスの内容、ユーザー印象度などの総合得点で順位が決まりました。

最優秀賞の2人は「お客様に喜んで利用していただけるよう頑張りたい」「日常業務でも経験を活かしていきたい」と話していました。

事務局の全農四国石油事業所は、「出場者の差はわずかでレベルは年々向上している、実際



▲（左から）坂本さん、中岡さん

にお客様から満点をもらえるよう取り組んでほしい」と呼びかけました。優秀賞受賞者は次のとおり（敬称略。カッコ内はSS名）

【フルSSの部】西村直人（J A愛媛たいき川下SS）、小玉一樹（㈱J A東宇和サービス野村中央SS）、梶原慎平（J Aにしうわ大平SS）【セルフSSの部】久保建拓（J A愛媛たいき長浜セルフSS）、坂本賢（J Aえひめ南JASS-PORT愛南）

●平成25年度愛媛県畜産振興連絡協議会総会 展望の持てる畜産の実現を！

愛媛県畜産振興連絡協議会は、8月27日、松山市のJ A愛媛で平成25年度総会を開き、25年度事業計画を決めるとともに、TPP断固反対に関する特別決議を採択しました。

同協議会は、肉牛・酪農・養豚・採卵養鶏の生産者団体が、畜種の枠を超えて畜産の振興に必要な調査や関係機関等との連絡・協議、陳情・要請活動などを行っています。

25年度事業活動では、消費者に県産畜産物の安全性アピールとブランド推進活動、「愛媛県畜産振興議員連盟」との意見交換会を開催し課題提起と要請活動・意見交換の実施、各畜種の抱えている課題の検討や交流会の開催を予定しています。



●「いよっこら」親子農業体験ツアー 収穫&ふれあい体験を楽しむ

食農教育活動に力を入れている、J Aえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっこら」運営協力会は、8月26日、親子農業体験ツアーを実施しました。

参加したのは伊予市近郊に住む親子15組・38人。西予市野村町・大野ヶ原ではあいにくの雨の中、歓声を上げながら元気いっぱい大根を収穫したほか、伊予市中山町で梨の収穫、西予市城川町では牛とのふれあいを楽しんで、「食」と「農」への理解を深めました。



●(株)えひめ飲料 「POMポンオ・レ」新発売！

(株)えひめ飲料は、9月16日、主力商品の「ポンジュース」果汁を10%配合した乳性飲料「POMポンオ・レ」を全国一斉に発売しました。ポンジュース特有の甘酸っぱい柑橘風味を活かすため、乳性飲料としては高果汁の商品に仕上げました。甘すぎずまろやかな美味しさが特徴です。

同社では、「当社ならではの新しい味の乳性飲料に仕上げました。乳性飲料が好き

な方はもちろん、ポンジュースファンの方や、『甘すぎてしつこい』といった従来のフルーツオレに満足していない方にもぜひ一度飲んでいただきたい」と力を入れており、初年度35万ケースの販売を見込んでいます。希望小売価格(500mlペット/本)は、147円(税込)。詳しくは(株)えひめ飲料ホームページまで。



JAふるさと自慢

直売所めぐり

vol.154



インフォメーション

JAグリーンえひめ

- 営/8:30~17:00(4~9月は18:00)
- TEL/089-964-4300
- 休/無休
- 住/東温市北野田字平松345
- URL/http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/store/s/index01.html

JAグリーンえひめ ~JA全農えひめ~

地元の豊かな食材で、いきいき元気な食ライフを

農

の心を大切に 前進する店づくりへ

「JAグリーンえひめ」は農家の所得向上と、お客様に地元の新鮮な食材をおいしく味わっていただく橋渡し役を担って14年目を迎えています。

周辺に競合店ができる中、もっと快適・もっと地元産をアピールするために昨年7月にリニューアルオープン。店内レイアウトの一新や、対面式精肉コーナーの新設で県内産精肉「伊予牛絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」、内臓などの量り売りにも応えています。毎週金・土曜の午前中はトラックで運ばれてくる鮮魚コーナーもにぎわっています。今年9月には店舗東側の花木コーナーを見直し、店内と一体感のある光のふりそそぐ明るい売り場となりました。

お客様の要望や時代のニーズに応えつつ、「フレッシュユビ市部会」の出荷会員約410名のパワーに支えられながら、「JAグリーンえひめ」は進化し続けています。



▲開店直後から多くの人でにぎわう店内



▲安心感も届ける対面販売の精肉コーナー



▲旬の味をまとめ、料理を提案するコーナーも登場。秋は芋炊きのおいしい季節！

イベントカレンダー

毎月第1日曜	お客様感謝デー
1月7日	七草粥お接待
4月下旬	れんげ祭り
7月	リニューアル周年祭
9月下旬	新米フェア
10月25~27日	収穫祭
12月21~23日	創業祭
12月28~30日	年末大売出し



今井 正明さん
(JAグリーンえひめ 店長)

「今春からメール会員を募っています。特売情報や旬の野菜・果物情報を配信するなど、メール会員ならではのお得な情報が満載です。登録料は無料なのでお申し込みはお気軽に！」



▲店舗面積は約900㎡、駐車場は広々120台収容

い ずれ劣らぬ JAブランド

約500㎡の店内は重信川が水源の東温市を中心に、広く中予地域一円から届く農作物や加工品でいっぱいです。イチゴの季節には店内が甘い香りに包まれ、通年を通してボリキュムのあるジャガイモやタマネギ、日持ちの良さでは定評のあるシキミは盆、彼岸ともなれば午前中で2,000束以上が売れていきます。今では珍しくなった太くて大きい「田舎きゅうり」、ハイカラな西洋かぼちゃ、年末が近くなれば手づくりの注連縄と、何が出てくるのかわからないのも直売所の醍醐味です。

リニューアル後も昔ながらのカゴ陳列で、カゴの中は個々の生産者の持ち分とあってそれぞれの主張やこだわりが見え隠れ。宝物を探すように一つ一つを丁寧に見てまわって良いものを見つけ出す、平台陳列とはひと味違う面白みがあります。

地域のお客様との交流を大切に、農地を開放し農業とふれあうイベント開催や、農作物の栽培などを気軽に聞ける営農指導員の常駐、県内各JAからの特産品も届き、併設の資材店舗では肥料から園芸資材、農工具まで充実と、JAのよさが随所に光る「JAグリーンえひめ」です。



▲JAひがしうわから届いた温室みかん。秋から冬へ、ミカンの季節がはじまる



▲秋はフルーツの季節。平台に集めて一堂に



▲大野ヶ原から産地直送とれたて泥つき大根、届きました！



▲JAえひめ南からは毎週土曜日に米粉パンが届く



北岡 美保さん
(JAグリーンえひめ スタッフ)

「花木コーナーには資格を持ったグリーンアドバイザーもいるので、農産物栽培からガーデニングまで、ギモンはなんでもご相談してくださいね」



▶よくわかる商品説明付のカゴの中



◀地元東温市の3蔵元のどぶろくも飲み比べたい



【広域map】



▲毎年10月の収穫祭では芋掘り体験ができる



【ピンポイントmap】



●8月中旬、早期米のコシヒカリの稲刈りをしました。例年のない暑さのせい、1週間ほど早い刈取りとなりました。今年の稲刈りは本当に暑さとの戦いでした。母・弟・妻との4人で2日かかりましたが、無事終わりJAに出荷も済ませました。代金の振込は翌日にありましたが、昨年より下がっていました。今後PPPの行方次第では、ますます暑さとの戦いの代償が小さくなりそうです。でも、新米を子どもや孫が本当に美味しいといって食べてくれる喜びを思うと今後も頑張ろうと思います。

(四国中央市・三好 昇さん)

●各地の花火大会も終わった8月の終わりに、孫が「花火をして家でみんな楽しんでください」といって全て準備して、「そら仕度出来ましたよ」とニコニコしながら浴衣姿に変身。「さあ始めましょう」といった姿を見て、自分の子どもの頃を思い出し、ドンとなった花火だきれいだなり、「と大きな声でパチパチと音を立てている花火に合わせて歌ってしまつたほど、孫のおかげで楽しいひとときを過ごさせてもらいました。暑い暑い夏の夜の思い出となったことで、元気で過ごしたいと思えました。

(西条市・近藤 明美さん)

●ふるさとエッセーのレーモンド松屋さん。グラフィックの玄関でギターを弾きながら艶のある声で歌われていたのを20年くらい前にちよくちよくお見かけしていました。今ではスターですね！レーモンド松屋さん頑張ってください。

(松山市・楠 裕子さん)

●レーモンドさんのエッセーを読んで。人間の個性が強いほど成功する気がしました。孫にランドセルを買いました。昔に比べて3倍以上高いのにビックリしました。

(岡山市・藤本 雅子さん)

●子どものころは嫌いだつたトマト。今では栄養もあり彩にもちょうど良いので、毎年我が家で栽培しています。ほとんどサラダとして生で食べていたので、料理コーナーで紹介されていた

メニューにぜひ挑戦しようと思います。これからもいろいろなレシピを期待しています。

(松山市・中平 寛子さん)

●JAふるさと自慢はいつも楽しみです。私もキュウリ・ミニトマト・ナス・オクラ・里芋・ピーマンなど野菜を作り食べています。とても美味しくいただいています。ウリは作っていないので買って来て、酒粕で粕漬けにして食べます。姉や親せきにあげると美味しいと喜ばれます。今年は、雨が降らずとも暑かったですね。やつと雨が降って、みかん・伊予柑・清見がとても喜んでいました。

(八幡浜市・田上 満代さん)

●ポップがパソコンで作成されるこの頃、Aコープおとし「こうてや」の心のこもつたポップにうっとりしてしまいました。自然に野菜コーナーに足が向いてしましそうです。一度行ってみたいになりました。

●タイズ番組「アタック25」で、「栗の収穫量全国第一位はどこでしょう？」という問題が出ました。身近な問題につこり。統計BOXのおかげです。テレビに向かつて、「茨城」と答えることができました。

(今治市・阿部 紗弓さん)

イベント情報

■えひめ・まつやま産業まつり

- ◇日時：11月23日(土・祝) 11月24日(日)
- ◇場所：松山市城山公園
- ◇内容：県内各地の展示・販売や製造実演・体験など、子供から大人まで愛媛の産業を見て触れて食べて、楽しめるイベントです。



県内各市町・JAのほか、JA全農えひめ関係では、畜産部が「『ふれ愛・媛ポーク』の焼肉販売」、愛媛県茶業振興協議会、グループ会社などが出品予定です。

今月のクイズ

「POMPON」
 (えひめ飲料が9月に発売した新商品の名前は何?)

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成25年11月18日(当日消印有効)

発表

「あぐり〜ど」12月号で発表します。

当選者発表

8月号の答えは「全国3位」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- | | |
|--------------|----------------|
| 大西 初美さん(松山市) | 白木 泰子さん(西条市) |
| 伊賀ヒサ子さん(東温市) | 萩山 増男さん(松山市) |
| 夏井 保子さん(松前町) | 二宮 高子さん(八幡浜市) |
| 藤田亜紀子さん(今治市) | 黒瀬 初子さん(上島町) |
| 田井能雅昭さん(東温市) | 山根 奈実さん(四国中央市) |

編集後記

★特集では、「ひめライス」ブランド誕生の経過にも触れながら、(株)ひめライスのイメージが浸透・定着していますが、競争激化の中で、ブランド力や販売力の強化、品質管理・安全・安心対策の徹底に向けた取り組みが進められています。野菜の日イベントで配布したキュウリやピーマンなど野菜のアイス。人によって感覚は違いましたが、結構美味しかったです。(正直)

NOW NOW

COOKING

今月の素材
生椎茸



免疫力アップと、低カロリーと
山の旨みがギュ〜っの、食用キノコ

▶(左) 椎茸の中華煮込み、(右後) 生椎茸の佃煮、(右前) 椎茸ツナマヨ焼



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

椎茸の中華煮込み

〈材料・4人分〉	※1人あたり約132kcal
生椎茸	8枚
ベーコン	80g
豆腐	1/2丁
チンゲンサイ	1株
ゴマ油	適量
①中華スープ	大さじ1/2
②水	300cc
③片栗粉	大さじ1
④水	大さじ1

〈作り方〉

- ① 椎茸とベーコンは食べやすい大きさに切る。豆腐は2cm程度の角切り。チンゲンサイは根元をよく洗い、3cmの長さに切る。
- ② フライパンにゴマ油を熱し、椎茸を炒める。椎茸がしんなりしてきたら、ベーコンと豆腐を加えて炒め、①を加える。
- ③ ②がひと沸したらチンゲンサイを加え、④の水溶き片栗粉でトロミをつけ、火をとめる。

生椎茸の佃煮

〈材料・4人分〉	※1人あたり約35kcal
生椎茸	8個
鰹節	小1袋(約4g)
酒	80g
①だし昆布	3cm角
醤油	大さじ2
砂糖	大さじ2
煎りゴマ	大さじ1

〈作り方〉

- ① 椎茸は石づき(軸の先の固い部分)をとり、傘の部分をスライス、軸は縦に裂く。
- ② 鍋に①を沸かし、②を加えて15分程度、弱火で煮る。
- ③ 仕上げにゴマをふる。

※とろろ芋に混ぜ、ご飯にかけて食しても美味。

椎茸ツナマヨ焼

〈材料・4人分〉	※1人あたり約166kcal
生椎茸	8枚
ツナ缶	小1缶
マヨネーズ	大さじ2
ピザチーズ	適量
パセリ(みじん切り)	適量
油	適量

〈作り方〉

- ① ツナは油を切り、マヨネーズと合わせておく。
- ② 椎茸は軸を取る。
- ③ フライパンに油を熱して、椎茸の傘は内側(ヒダの方)から焼く。ひっくり返して①をのせ、その上からチーズをかけて蓋をし、チーズがとろければパセリをふる。



9月16日(月) 新発売!
甘すぎないまろやかな
乳性飲料
POM ポンオ・レ

甘酸っぱい柑橘風味と
まろやかなおいしさで
くつろぎのひと時を。





ポンオ・レ
Pomelo Juice



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com

JA全農えひめ/JA全農グループ

新鮮で安全・健やかな食文化の創造と消費者のネットワーク!

えひめの食
まいにちが、ごちそう

レインボーフェスティバル

in えひめ2013

初めての体験!うれしいな!!
農の体験コーナー
★大型農機の体験
★寄せ植え体験

体験コーナーも
おこしなさい
あそびなさい

お友達を誘って、家族みんなで参加してね!!

入場無料

2013.11/2(土)
10:00~15:30 ※雨天決行
— 9:40~ オープニングセレモニー —

会場 **アイテムえひめ**
松山市大可賀2丁目1番28号

■JA全農えひめとグループ会社のブランドマーク&キャラクター

獣電戦隊キョウリュウジャーショー 観覧無料!
日時 11月2日(土)
11:40~13:00 [1回目]
13:40~14:40 [2回目]
場所 特設ステージ

駐車場無料!!

松山 松山光津 高浜 松山港 山田 松平橋 新三輪 松山駅 第2駐車場 アイテムえひめ 新三輪通り 松山 空堀

松山市南堀端町2番地3

発行/全農愛媛県本部 〒790-0855
編集/総務課 ☎(089)948-5323
印刷/コープ印刷(株) 定価100円(本体90円)

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。